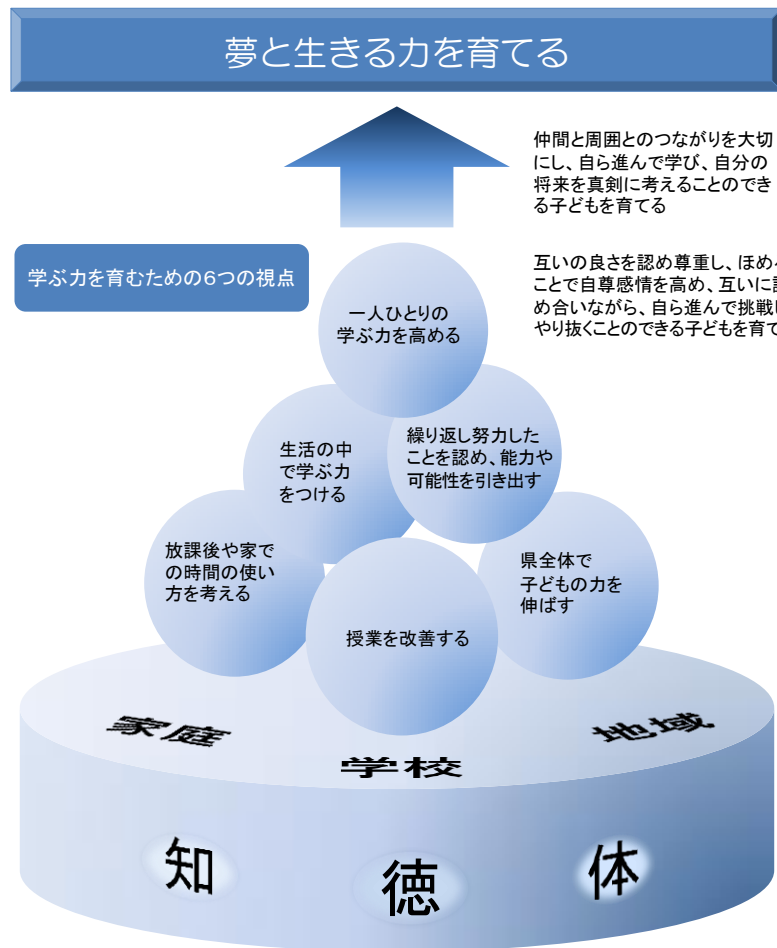




滋賀県教育委員会では、子どもたち一人ひとりの「確かな学力」を育むための基盤となる「学ぶ力」を高めるため、「学ぶ力向上 滋賀プラン」を策定したところ。 「学ぶ力向上 滋賀プラン」では、学ぶ力をつけるための6つの視点(左図)を示し、これをもとにした6つのプランにより、子どもたちの夢と生きる力を育てることをめざしています。

本県の子どもたちの学ぶ姿には、学習の基本となる学びの姿勢や態度が身に付いていないことなどの課題がみられます。これらの課題解決に向けては、プランで示す6つの視点の中の「生活の中で学ぶ力をつける」ことや、「繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す」ことが大切であると考えます。そこで、小学校低学年において、主体的に学ぶ姿勢、学び方、学習規範など「学びの基礎」を身に付けさせることを目的とした「学びの基礎体験型学習プロジェクト」を実施することとしました。

このプロジェクトでは、幼児教育からの接続期にある低学年の児童には、具体的な活動や体験的な活動を通して「学びの基礎」を身に付けさせることが重要であると考え、就学前からの体験的な活動の指導のポイントについて「学びの基礎指導の手引き」としてまとめました。また、この手引きを活用した授業研究をすることにより、指導の重点の共通理解を図るとともに、各学校・園での実践を通して、子どもたちに「学びの基礎」を身に付けさせることをねらいとしています。

学びの基礎体験型学習プロジェクト

幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなげることで、子どもは安心し、自信をもって成長し、自立への基礎を育んでいきます。

「学びの基礎」を低学年の児童に身に付けさせるうえで留意することは、「幼稚園教育要領」等にねらいや内容として示されている5つの領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)とのつながりを考えることと、幼児教育で培われる「学びの芽生え」を生かすということです。

下図のように、幼児期の子どもは、遊びを中心とした生活の中で、様々な対象(人・もの・こと)と直接的・具体的な体験を通して学んでいきます。幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程に基づいて実施されています。そして、児童期の教育は、各教科の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。

このことから、幼児期から児童期への接続期には、学校生活に円滑に移行していくためのアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムが必要となります。

学ぶ力の向上

児童期 学びの基礎

主体的に学ぶ姿勢

意欲的に学習をする能力や態度
学ぶ事の楽しさや成就感の体得
知的好奇心をもつ

アクティブ・ラーニング

学び方

具体的な活動や体験を通す
問題解決的な能力や態度
試行錯誤を繰り返しやってみる

探究的な学び

学習規範

姿勢や態度
学習用具や用具の使い方
話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと

自ら学ぶ学習習慣

学習

幼児期 学びの芽生え

○様々な遊びの中で、興味や関心をもち、頭も心も体も動かして、楽しんで取り組む。

○身の回りの「人・もの・こと」に直接関わり、幼児なりのやり方で、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

○生活に必要な活動を自分でし、友達と生活する中できまりの大切さに気付いたり、考えて行動したりする。

遊び

幼児教育

- ・5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を総合的に学んでいく教育課程等
- ・子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など

接続期

5歳児3学期
アプローチカリキュラム

安心 成長 自立

1年生1学期
スタートカリキュラム

小学校教育

- ・各教科の学習内容を系統的に学ぶ教育課程等
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・教科書が主たる教材
- ・系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

学びの基礎指導の手引き

具体的な活動や体験を通して「学びの基礎」を育む

幼児期の「学びの芽生え」を児童期の「学びの基礎」につなぎ、子どもたちの学ぶ力をつけます

将来を見据え
「未来を拓く」

未来づくり

人づくり

仲間づくり

「心豊か」に仲間と力を合わせる

自分づくり

「たくましく」自分を成長させる

県下最大高島市のトチノキの巨木

未来を生きる子どもたちが枝をはり、葉を生き茂らせ、たくましい大樹となり、豊かな果実を実らせるようにするためには、大樹の幹を支える、しっかりとした根っこが必要です。生きる力の要素の1つである確かな学力を育む基盤となるのが学ぶ力であり、基盤となる学ぶ力の土壌が、小学校低学年で育てたい「学びの基礎」であると考えます。

「学びの基礎」の3つの要素

主体的に学ぶ姿勢

子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶことの楽しさや成就感を体得すること。

学び方

具体的な活動や体験を通して学んだり、試行錯誤を繰り返しやってみたりしながら、問題解決的に学んでいくこと。

学習規範

学習規律の他に、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすること。

平成27年4月

滋賀県教育委員会

学びの芽生え（幼児期）

- **体を動かす** 「健康」
 - いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
 - 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- **自立心を育てる** 「人間関係」
 - 自分で考え、自分で行動する。
 - 自分でできることは自分でする。
 - いろいろな遊びを楽しみながらやり遂げようとする気持ちをもつ。
- **興味や関心をもつ** 「環境」
 - 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
 - 日常生活の中で数量や図形、簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- **本に親しみ、想像する** 「言葉」
 - 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
 - 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
- **伝え合う楽しさを味わう** 「表現」
 - 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
 - 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

主体的に学ぶ姿勢

学びの基礎（児童期）

【意欲的に学習をする能力や態度】

- 学ぶことに興味をもつ。
- わからないことは、自分で調べる。
- 自ら考え行動しようとする気持ちをもつ。
- がんばったことやできるようになったことで自信をもつ。
- 新たな問題に果敢にチャレンジしようとする。
- 思いきり体を動かして汗をかく。

【学ぶことの楽しさや成就感の体得】

- 人と関わりを持つことにうれしさを感じる。
- 自分だけでなく、仲間と協働して解決する。
- 友だちとの触れ合いの中で、自己を発揮する。
- 認められることで自己存在感や充実感を味わう。
- 新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう。

【知的好奇心をもつ】

- 興味や関心が芽生えたことに夢中になる。
- 文字や数に興味をもつ。自然に興味をもつ。
- もっとやってみたいという気持ちをもつ。

指導のポイント

安心 成長 自立

■ **しっかりほめる、認める、評価する**

- ・周りの子どもも「できているな」とわかることや子ども自身も「できているな」と感じていること、自分で気づいていないこと（教師が価値づける）をほめる。
- ・自ら進んでしてきたことや進歩がなくても続けていることを認め、定期的に、客観的な評価をする。

■ **共感する**

安心

- ・「わかった」瞬間に一緒に喜ぶ。
- ・子どもの思いに寄り添う。



なぜかなあ？
ふしぎだなあ。

やったあ！
自分でできたよ。

わっ！
おもしろそう。

■ **知的好奇心を刺激する**

自立

- ・子どもが感性を揺さぶられることによって芽生える興味や関心を大切にすること。
- ・少しだけ難しいこと（さらに良いこと）を伝えて、期待していることを示す。
- ・既知と未知との「ずれ」を意識させる。
- ・予想を取り入れて、課題を自分事にする。

アクティブ・ラーニングにつながります

低学年において、子どもが知的好奇心をもって意欲的に学習をする能力や態度、学ぶ事の楽しさや成就感を体得することは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング」につながっていきます。
学ぶことの楽しさや成就感を体得するためには、具体的な活動や体験を通すことが重要です。

- **見通しを持つ** 「健康」
 - 生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- **人とかかわる** 「人間関係」
 - 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
 - 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- **発見を楽しみ、考える** 「環境」
 - 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
 - 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- **自分の言葉で話す** 「言葉」
 - したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
 - いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- **表現を楽しみ、工夫する** 「表現」
 - 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
 - いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

学び方

【具体的な活動や体験を通す】

- 直接触ったり、操作したりして考える。
- 身近なものやことを見たり、聞いたりする。
- 教室の中だけでなく、外に出て活動する。
- 人とかかわり、一緒に活動したり、つくったりする。
- 身の回りにあるものを自分と一体として理解する。

【問題解決的な能力や態度】

- 自分たちで問題を見付けて、解決しようとする。
- これまでに学んだことを使って問題を解決する。
- 自分なりのやり方で取り組む。
- 環境に好奇心や探究心をもってかかわる。
- 仲間とともに問題を解決する。

【試行錯誤を繰り返しやってみる】

- 試行錯誤を繰り返す中で、新たなものを創造する。
- 繰り返し努力することをいとわない、または、楽しむ。
- 失敗してもあきらめずに、最後までやりきる。

指導のポイント

安心 成長 自立

■ **身近な事象を取り扱う**

安心

- ・子どもたちの身のまわりにあるものを教材化する。
- ・子どもにとっての必然性の高いものを教材化する。
- ・児童が思いついた方法をすぐに試せるような環境を用意する。

■ **活動に没頭できるようにする**

成長

- ・時間や場所にゆとりを持つこと
- ・上手くいかなかった理由を考えて失敗を生かす。
- ・繰り返し学ぶこと、あきらめずに学び続けることを価値づけて、意欲を持続させる。



見てみたい。
さわってみたい。
やってみよう。

あっ！
できそうだ。

もっとやってみよう。

■ **子どもの多様性を保障する**

自立

- ・子どもの創意工夫を生かし、イメージを広げる。
- ・出来栄ではなく、学びの過程を評価する。
- ・一人ひとりの表現や思いを大切にする集団づくり。

■ **共同的な学びにする**

成長

- ・グループで学び合う活動や、自分の考えを伝え合う活動を取り入れた共同的な学びにする。

探究的な学びにつながります

子どもが試行錯誤を繰り返しながら学んでいく「学び方」は、中学年以降の探究的な学習につながっていきます。
自分なりのやり方や多様性を保障することは、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」という、問題解決的な学びのプロセスを大切にすることであり、学びの質や深まりを重要視することです。

- **健康な心と身体を育てる** 「健康」
 - 健康な生活のリズムを身に付ける。
 - 生活に必要な活動を自分でする。
- **規範意識の芽生えを培う** 「人間関係」
 - よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
 - 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- **生命やものを大切にする** 「環境」
 - 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
 - 身近な物を大切にする。
- **話を聞く、話す** 「言葉」
 - 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
 - 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
 - 親しみをもって日常のあいさつをする。

学習規範

【姿勢や態度】

- 先生や友達の話をしっかり聞く。
- 学習中、姿勢を保つ。
- 集中して課題に取り組む。
- 身の回りの整理整頓をする。
- 授業と休み時間の区別など時間を守る。
- 学習課題にすぐに取り組む。
- 下敷きを敷いて、ノートをとる。板書を写す。

【学習用具や用具の使い方】

- 学習に必要な用具が揃っている。（不要な物は持ってこない）
- 正しい鉛筆の持ち方で文字を書く。
- 学習用具を大切にすること。

【話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと】

- 黙って手を上げて、指名されてから発表する。
- 話を聞くときは、話し手の目を見る。
- 自分の考えたことを書く。

指導のポイント

安心 成長 自立

■ **共通理解から共通実践へ**

安心

- ・全校で統一した約束で指導する。
- ・誰もが分かるようにする（例：各教室に掲示する、ガイドブックを作る、保護者にも説明する等）
- ・できたことをほめ、認めることで、学習習慣の定着を図る。

■ **成長を見守る**

成長

- ・指導の重点を絞って取り組む。
- ・変化が見られるまで粘り強く続ける。
- ・実現可能な目標を立ててレベルアップを図る。

片づけると
気持ちいいな。

準備ができてい
ると安心。

みんなに知らせ
たいな。

■ **自立への基礎を養う**

自立

- ・自分でできることは自分でさせる。
- ・自分たちで決めた約束は必ず守らせる。
- ・成長や伸びを子どもにフィードバックする。

自ら学ぶ学習習慣につながります

学びの姿勢や態度の他、学習用具の使い方や読んだり書いたり聞いたり話したりすることにおける学習規範は、集団や実生活の中で人とかかわりを通して、体験的に育成されます。
実体験を通して育成された学習規範は、自ら学ぶ学習習慣の定着につながります。